

よく遊び じっくり学び 正しく選ぶ 子



緑小だより

12月号

令和7年11月28日（金）

茅ヶ崎市立緑が浜小学校
校長 菅野 康一

【多くの目で子どもを見る③】

夏が終わり、秋がなく、冬がやってきました。インフルエンザ等に気を付けて、ぜひとも身も心も温まる冬であることを願っております。

お子さんを		学校で担任 から見て	
		困り感 なし	困り感 あり
家庭で 保護者 から 見て	困り感 なし	A	B
	困り感 あり	C	D

さて、昨年度の学校だより12月号と同じ内容になりますが、この時期に是非お伝えしたいことですので、改めてご一読ください。子どもは家庭と学校で見せる姿が違ふことがあります、そのことから、保護者と担任との課題意識がずれる場合も出てきます。上の表で、AとDにあたる場合、お子さんは家庭でも学校でも同じ姿を見せていると考えられ、担任と保護者は同じ目線で支援・指導にあたることができます。

一方でBやCにあたる場合は、家庭と学校で見せる姿が異なっており、具体的な姿を聞き合った上で、お互いの考えを理解することが大切になり

ます。Cにあたる場合、「外で頑張っているケース」が多く、自分を出せていることから、担任から見たよさを、お子さんのよい一面として捉え、褒める材料の一つとしていただければと思います。

Bにあたる場合は、家庭では問題はないのに、学校では家の姿からは想像できない姿が見られるようなケースで、学校での支援・指導が不十分であることが要因となることもあります。まず学校と家庭とでお子さんの様子を共通理解し、それぞれができることを話し合って対応していくことが大切かと思ひます。学校での指導を改善するためにご家庭での対応を参考にさせていただくこともありますし、学校からお願いする場合もあります。何より大切なことは、子どもたち一人ひとりがかけがえない存在であり、学校と家庭がお子さんたちの成長を共に話し合い、支え育んでいくパートナーでありたいと強く思ひます。学校では、担任だけでなく多くの目でお子さんたちを見守る体制を作っております。個別懇談等、改めてよろしくお願ひいたします。